

論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 ( 学 術 )	氏名 Author	UCH RAKSMEY
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation Banking Crises, Macroprudential Policies and Financial Inclusion			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	柿 中 真 教授		印 Seal
審査委員 Committee	市 橋 勝 教授		
審査委員 Committee	後 藤 大 策 准教授		
審査委員 Committee	高 橋 新 吾 准教授		
審査委員 Committee	Ching-Yang Lin 准教授 (国際大学大学院国際関係学研究所)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本博士学位論文では、国際金融において重要な要素である(i)銀行危機、(ii)マクロ・プルーデンス政策及び(iii)金融包摂(financial inclusion)を中心に分析・議論しており、学術的に重要性の高い課題であり、かつ、国際金融システム安定を目的としている政策当局にとっても非常に有意義な課題である。当該生は国際マクロ経済学・銀行論の分野における先行研究を踏まえた上で、国際金融に関する3つの重要なトピックに特定し、計量経済学の分析手法を応用して研究を行っている。一つ目は、銀行危機と銀行貸付の関係性に関する研究、二つ目はマクロ・プルーデンス政策と銀行危機との関係性に関する研究、三つ目はマクロ・プルーデンス政策と金融包摂との関係性に関する研究である。それぞれの研究課題は新規性・重要性が高く、国際マクロ経済学の視点に立った研究結果及び研究含意を導出したことは非常に高く評価できる。本博士学位論文は5章から構成されている。</p> <p>序 章：導入 第2章：銀行危機と銀行貸付の関係性 第3章：マクロ・プルーデンス政策と銀行危機との関係性 第4章：マクロ・プルーデンス政策と金融包摂との関係性 終 章：結論</p> <p>主な内容は以下のとおりである。第二章では、銀行危機と銀行貸付の関係性について、国別パネルデータを用いてLocal projection手法を応用して分析している。主な研究結果は銀行危機のネガティブな影響は金融発展の度合及び金融サイクルに依存していることが示された。この結果は、金融当局によるEarly Warning 政策がこれら二つの経済環境に依存すべきということを示唆している。第三章では、マクロ・プルーデンス政策の経済的便益に着目し、その政策と銀行危機との関係性に関して国別パネルデータを用いて分析している。主な研究結果としては、借手をターゲットとした政策は銀行危機の起こる確率と負の関係性があるが、クレジットギャップが低い状況ではその関係性がより強くなることが示された。一方、貸手をターゲットとした政策は銀行危機の起こる確率と統計的に相関がないことが示された。これらの結果は、マクロ・プルーデンス政策(特に借手をターゲットとした)が銀行危機の可能性を防ぐというその政策の本来の目的と一致していることを示している。第四章では、マクロ・プルーデンス政策の経済的費用に着目し、その政策と金融包摂との関係性に関して国別パネルデータを用いて分析している。主な研究結果として、開発途上国及び先進国ともに、借手をターゲットとしたマクロ・プルーデンス政策と金融ユーズ(financial use)は負の関係性があることが示された。一方、マクロ・プルーデンス政策と金融アクセス(financial access)の関係性は開発途上国においては統計的に有意ではないものの、先進国においては正の相関があることが示された。これらの結果はマクロ・プルーデンス政策が特に開発途上国において金融包摂を妨げる要因になりうることを示唆している。</p> <p>第二章に関しては、Impact factor 付国際学術雑誌(Uch, R., Miyamoto, H., Kakinaka, M., 2021. Finance Research Letters)に受理・出版されている。第四章については、Impact factor 付国際学術雑誌に投稿し、現在、修正要求を受けている段階である。第三章については、Impact factor 付国際学術雑誌に投稿中の段階である。これまでの研究を踏まえ、国際マクロ金融に関する主要政策課題を体系的に構築・分析し、重要な政策含意を導出していることは高く評価される。以上の結果、審査委員全員一致で、本論文が申請者に博士(学術)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			